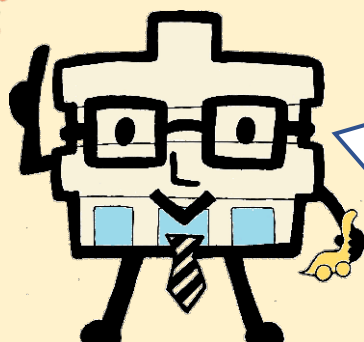


大泉あさひで通信

発行：社会福祉法人 大泉旭出学園 旭出生産福祉園 〒178-0063 東京都練馬区東大泉 7-21-32
TEL：03-3925-6166 FAX：03-3925-6169 ホームページ <http://www.asahide.or.jp/>



めざせ
100周年!!



社会福祉法人大泉旭出学園 50周年 法人設立の経緯と旭出学園の教育と福祉

大泉旭出学園理事長
浅井 浩

法人設立の経緯

大泉旭出学園が社会福祉法人の認可を得て事業を開始したのは1974(昭和49)年のことです。

本年は、法人設立50周年となります。社会福祉法人としての最初の事業が旭出生産福祉園(通所授産施設定員60名)の開設です。当時は、こうした施設が急増しそうな兆しが現れていたころでした。また戦後の教育制度に基づく障害児教育の義務制の実施に向けた取り組みが進められていたころもありました。

法人設立に至る概略は、障害児教育の場がまだ整っていなかった戦後の1950(昭和25)年、知的発達に遅れのあるわが子に何とか適切な教育を受けさせたなどの母親の願いによって、全く私的な園児14名の小さな学園が誕生したことに端を発します。

その小さな学園が、1960(昭和35)年に学校法人旭出学園となり、正式な学校である旭出養護学校(現在の特別支援学校)を開校し、その学校規模が、小学部・中学部・高等部という構成になり、高等部の卒業生が出席することになったのですが、その卒業生たちが就職して、社会で生活していくというのはなかなか厳しい状況でした。そこで、卒業後も保護者が協力をすることを条件に、卒業生はみな学校内の作業実習場に就職して働くという名目で学校に残っていただけるようにし、その卒業生のグループを「生産部」と呼ぶことにしました。

生産部ができたのは1963(昭和38)年ですが、卒業生たちは働くという名目で生産部に所属しているわけですから給料を出さなければならぬということに、金額はわずかですが報奨金と称して支給することにし、さらに生産部員を指導する教員も必要であることから、その資金繰りで、生産部員の保護者からは月謝というのをおかしいので学園維持費という名目で、在校生の

月謝よりはやや低いお金を負担してもらっていました。しかし毎年卒業生が加わり、生産部の人員が増え、そのままというわけにもいかないので、卒業生の働く場、生活の場となるような社会福祉法人の運営する施設をつくらうということになり、資金的工面をし、計画を進めました。それが1971(昭和46)年の富士旭出学園(静岡)の設立となり、続いて1974(昭和49)年の大泉旭出学園(東京)の設立となったわけですが、

なお静岡と東京に施設をつくることになったのは、卒業生の健康や情緒の安定性などの面を考慮した場合に、都会的環境のなかでもよいと思われるケースと農村的環境で農耕や園芸、牧畜や窯業などの作業をしながらの生活がよいと思われるケースがあり、それぞれの環境に施設をつくるというのが理想になったからです。

農山村の環境については、三木安正先生とつながりのあった静岡県富士宮市の当時の市長だった山川斌氏に相談したことから市長のご尽力で富士宮市の市有地を無償で貸与していただけることになりました。

都会的環境については、かねてから候補地としていた旭出養護学校に隣接する竹中工務店の所有地で、(株)竹中土木が資材置き場として使用していたところが移転することと、譲渡を申し入れたところ、竹中工務店のご厚意により譲渡を受け、実現したというのが経緯のあらましです。(三木安正編著「精神遅滞者の生涯教育」旭出学園25年の歩み」日本文化科学社 昭和51年7月10日)

旭出学園の教育と福祉

学校法人旭出学園の特別支援学校と社会福祉法人の富士旭出学園と大泉旭出学園の福祉施設等はそれぞれ設立主体が異なる教育と福祉の事業を行う別組織ということになりましたが、その源は一つで、旭出グループとして現在に至っています。

学園創始者の三木安正先生は、「教育と福祉は違った領域の仕事のように考える人がいると思うが、『福祉』は目標で、『教育』というのはそれを達成する手段であると考えたほうがよいと思う」という考えで、園児たちの生涯を見据えた「生涯教育」「生涯福祉」の構想を掲

げていました。それが今の旭出グループを構成する土台になっているといつてよいと思います。

一昨年、障害者権利条約の締約国である日本の教育や福祉の取り組みに対する国連の障害者権利委員会による初めての審査があり、審査結果及び勧告が公表されました。勧告の内容は、障害者の入所施設の廃止、福祉的就労に関する否定的見解、特別支援教育は分離教育であるから中止するようにということなどを含むものです。これは日本に対して、「多様性」とか「共生社会」「インクルーシブ教育」についての具体的な対応を求めているわけで、日本流の確かな対応を示さなければなりません。教育と福祉は文化国家のパロメーターであり、その国の在りようと無関係ではないわけですから、今後を考える上で戦後日本の教育や福祉の歴史をたどってみるのがよいと思います。その意味では、教育から福祉の事業へと連なる旭出学園の歩みと現状及び課題は示唆に富むものであることは確かだと思えます。

社会福祉法人大泉旭出学園は現在、旭出生産福祉園・大泉根出福祉園・調布福祉園・旭出調布福祉作業所・板橋区立徳丸福祉園の五つの事業所を統括し、社会福祉法に定める障害者総合支援法に則った事業経営を行っています。重要事項はむろん理事会決議を要しますが、経営の具体的なことは、ほぼ毎月一回開催する経営会議(理事長・各事業所の施設長・関係職員が出席)で協議し、進めています。この会議では、各事業所の職員個々の日頃の気付きや疑問、発想などに基づく提案なども大切だと考え、「職員提案活動規程」というのを設けていますが、その周知が不十分だったため、見直しを行い、周知を図ることとしました。これによって職員の提案活動が活発になることを期待しているところです。

社会福祉法人及び社会福祉法人の行う事業の意義等についてはもっと広く人々に理解してもらえるように努力する必要がありますと考えます。研鑽を積み、社会の動向等を注視するとともに、よりよい事業の推進に努めてまいりたく、今後ともご指導・ご鞭撻、ご支援のほどお願い申し上げます。

(令和6年1月17日 大泉旭出学園経営会議配布資料より抜粋加筆)

「創立50周年をむかえて」

旭出生産福祉園 西塚秀子

今年には法人設立50周年、旭出生産福祉園が事業を開始し50年となります。養護学校（現「旭出学園」特別支援学校）の卒業生の働く場として作られた旭出生産福祉園は、開設当初通所60名の授産施設でした。その後入所施設も整備され、学校の寄宿寮「さつき寮・やよい寮」で卒業後もそのまま生活されていた利用者さんが福祉園寮（当時は入所をそう呼んでいました。）に移られ、通所・入所を備えた福祉的就労の場として、建材『スーパーブロック製造』『紙工』『製函作業等』『軽作業』『絵具の充填作業等』『染織工芸』『機織り』『木工芸・タイル工芸・陶芸と作業種を広げ充実を図ってきました。その後製パン作業も始め、週3日の販売ですが地域の方々も販売日を楽しみにしてくださっています。

平成14年に現在の入所棟が建て替えられる前は、本館管理棟の前は広場で、バスケットコートもあり、昼食前の業間体操（ラジオ体操）やお昼休みなども活発に身体を動かしていました。現在は各科ごとにラジオ体操を行っていますが、加えて食事前は安全でおいしく食事ができるように嚥下体操もとりいれ

ています。

平成23年に施設体系を移行し、授産施設から障害者支援施設となりました。移行の際は生活介護ということ、今まで作業といっていたのが日中活動と言われるようになりましたが、長年続けてきた作業活動は大切にしながら利用者さんのニーズに合った活動を取り入れ日々の活動も各グループごとに、生産活動のみならず健康維持や趣味的な活動などそれぞれバラエティーに富んだ取り組みをしています。

ハード面でいえば、50年が経過した建物の老朽化は否めず、開設当初からの利用者さんもあり、20代から70代までの利用者さんの実情に合った建物・活動棟が望まれています。段差の解消や介助しやすいトイレ等の問題は喫緊の課題であり数年前よりコンサルタントを交えて話し合いを続け、50周年を目指して活動棟の建て替え計画を進めてきました。構想では、現在分散している建物を一つにし、その中でグループに分かれそれぞれ特徴のある活動をしていくというものです。分散している活動棟の利点もありますが、活動棟を集約し相互協力しあえる体制を作ることによって一人一人の活動の幅も広がり、利用者さんにとってより安全で快適な生活が送れるのではないかと考え、計画を進めてきました。



昭和49年 建材



昭和59年 染織工芸



平成5年 紙工

残念ながらまだ実現には至っておりませんが、建て替えの準備のために活動場所を移っていたにいたるグループもあり利用者さんたちも心待ちにしておりますので一日も早い着工を目指したいと思っています。

今後も高齢化・重度化・多様化など様々な問題に直面していくと思われませんが、50年という歴史の中で培ってきたことを大切にしながら、この先も創意・工夫を忘れず一人一人が心豊かにその人らしく日々を過ごすことのできる大切な居場所でありたいと願っています。



旅行会

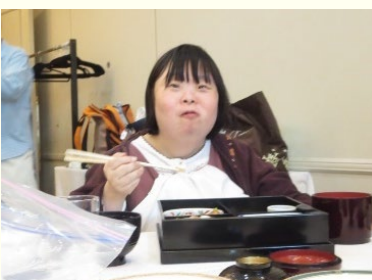
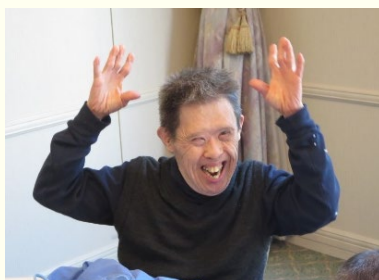
熊谷 四季の湯 ホテルヘリテイジ

10 月に 3 回に分かれて、ホテルヘリテイジへ行きました。バスから道中山々がきれいに見え、ホテルでは豪華な食事をいただきました。食後はお土産売り場でお土産を買い、アイスやジュースでゆっくりしてきました。



ホテルカデンツァ光が丘

11 月 9 日にホテルカデンツァへ行きました。天気にも恵まれ、クリスマスモード漂う中、楽しく食事をいただきました。



(落合)

ハロウィンパーティー

今年のハロウィンパーティーは、午前に入所棟で仮装とおぼけ作り、午後は食堂で会食と職員によるマジックショーを行いました。

マジックショーでは「空の袋からコーラが!」「ストローが五百円玉貫通!」「首が伸びる」「人体浮遊マジック」を行いました。

お菓子をくれないといたずらするぞ



う、ういて…る?

仮装を楽しみました



今年も楽しくハロウィンを過ごしました



クリスマス会

今年のクリスマス会は、午前に「腹ペコ雪だるまにご飯をあげよう」。午後に「クリスマススクイズ」、「音楽に合わせてダンス」、「ケーキタイム」、「サンタによるプレゼント配り」と盛りだくさんでした。今回の食事は調理職員によるオードブルと、ひとりひとり選べるデコレーションケーキと素晴らしいかったです。

雪だるまに雪玉を食べさせよう



パスワード
「あ」「さ」「ひ」「で」で
箱からサンタ登場!!

豪華な食事と
デコレーションケーキ



楽しみにしていた
プレゼント



ふれあい作品展

令和 5 年 12 月に、練馬区役所でふれあい作品展が行われました。

福祉園からも作品が出品され、来館された方たちの目を楽しませていました。

また、作品を出品した利用者さん方のご自身の作品が多くの人に見てもらえる機会ができて喜んでいました。作品の一部を紹介します。



募金活動を行ないました。

令和 5 年 12 月に赤い羽根共同募金の活動を行ないました。募金活動を行うにあたり、改めて募金してもらったお金の使い道を皆さんに説明しました。「わたし、知ってるよ!」「困っている人が助かるんだね。」など、様々な声が皆さんから聞かれました。また、令和 6 年の元旦を襲った能登半島地震に対しても緊急の募金活動を行ないました。急な事にも関わらず、皆さんからご協力いただき大変ありがたく感じました。被災された方が一日でも早く普段の生活に戻れることを祈念します。



職員研修がありました。

令和 6 年 2 月に、旭出グループで中堅職員を対象にした研修会が開かれました。

今年度は板橋区にある徳丸福祉園の主催でした。講義の内容は、「日本政府に対する国連障害者権利委員会の勧告を知る」でした。併せて、勧告に対する日本政府や各団体の見解を知ること、この勧告を機に改めて旭出の法人の理念や方針の振り返り、我々支援員に求められる利用者支援について考える機会となりました。

普段はなかなか会う機会のない他の施設の職員と意見の交換をしたり、お互いの施設で行っている支援を紹介しあったり、と実りのある時間を過ごしました。

また、一日目の夕方の懇親会では親睦を深める場所となり、楽しい時間を過ごすことができました。二日目はグループ研修では、前日の話し合いをさらに深める場となり、有意義な時間となりました。

(永濱)

勤労感謝祭

4年ぶりの祝日、11月23日に開催されました。福祉園から勤労賞が1名選ばれ、学校の作業努力賞と共にみなでお祝いをしました。当日は天気も良く、久しぶりの外部からのアトラクション『せんば太鼓』をお呼びし、迫力のある演奏で遠くからでもみんなが振り向いて見入る程でした。小学部の和太鼓演奏はとてかわいらしく、応援している方も多かったです。

製品販売も楽しみにしてくれている方が多く、学校の各学部や福祉園にも多くの方が来てくださいました。また次回もより良い物を手に取ってもらえるよう、利用者職員と一丸となって頑張ります。



クリスマスフェア



12月14、15日に、毎年恒例のクリスマスフェアを行いました。以前建材の休憩室として使っていた部屋での開催でした。建設工事の為、電源が通っていない部屋だったので、非常用電源を使い、投光器やランタンで明かりを灯し、クリスマスソングが流れ、その素敵な感じがまたクリスマスと合っていたように思います。利用者の皆さんも、買い物を楽しんでいたようで、悩んで選び、嬉しそうに買われていました。



障害者フェスティバル

12月2日(土)に光が丘の区民センターを中心に行われ、福祉園も製品販売で出店しました。

天気がとても良く、開始時間前にも関わらず製品を手にとって見てくれるお客さんもたくさんいました。コロナ禍で規模を縮小していましたが、今回から舞台発表や作品展示も再開し、より賑わいが復活していたように思います。また機会がありましたら、参加したいと思っています。



(石川)



後援会へ寄付ご芳名一覧（順不同）

『みなさまからのご支援ご協力に
厚く御礼申し上げます』



大泉旭学園の事業につきましてはご高配を賜り感謝、お礼申し上げます。
特色ある独自性を発揮した事業展開とその充実を図っていくためには経営基盤を固めていく必要があります。さらに多くの方々に後援会の会員になっていただきたく、会員の方々にはお知り合いなどにご紹介いただけたら幸いに存じます。
より一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。



◇退職者

福田 ひとみさん（まんまる）

◇新職員紹介

吹越 愛貴さん（入所部）

十一月から入所部に入職致しました、吹越です。慣れないこともありご迷惑お掛け致しますが、宜しく願います。

鶴岡 渉さん（事務）

4月から事務部に入職致しました。鶴岡です。以前大学の実習でお世話になった生産福祉園で頑張っていたと思っています。よろしくお願いします。

◇年間行事予定（4月～9月）

4月1日 新年度始業式・入所式

4月26日 保護者会

5月18日 青葉のつどい

6月17日 生活習慣病健診

6月21日 保護者会

8月13～15日 夏季休業期間

9月13日 保護者会

◇編集後記

法人設立50周年おめでとうございます。これからもさらなる飛躍を目指していくために職員一丸となって努力していきたいと思えます。

（落合）